

# 石油需要見通しの先読み糸口

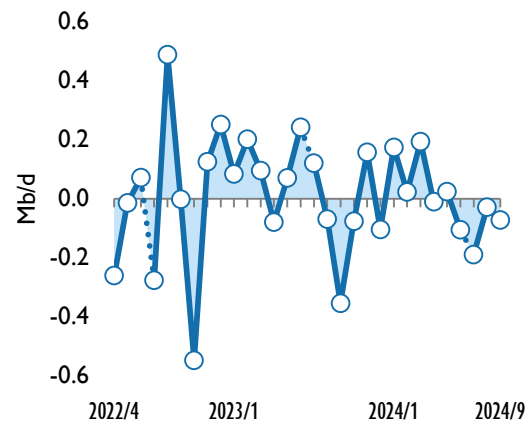
日本エネルギー経済研究所 計量分析ユニット | 柳澤 明

人は未来を知りたがる。先行きを知れば、戦略的に行動でき、リスク回避に有用でもある。そのため、数多の見通しが立てられている。石油の短期見通しは、現在の経済・社会を支える観点からも、その重要性を強調しすぎることはない。国際エネルギー機関(IEA) “Oil Market Report” (OMR)、石油輸出国機構(OPEC) “Monthly Oil Market Report” (MOMR)、米国エネルギー情報局 “Short-Term Energy Outlook”などが代表的である。

マーケットなどでは見通しだけでなく、その当たり外れ具合や変化も材料視される。有名どころでは米国の雇用統計がある。本来なら、雇用者数や失業率が経済状況を表す指標として重用される。しかし、これらの統計値そのものより、事前の予想との乖離が、こと短期的には大きな意味合いを持って扱われる。

そういったことからか、IEA OMRでは、世界の石油需給を示す「もっとも重要な」Table 1については、前月号からの変化量がTable 1aとして掲載されている(OPEC MOMRではTable 11-1に対するTable 11-2がこれに相当する)。こうした見通しの修正が原油価格を揺さぶることは決して珍しくない。最近では——ロシアのウクライナ侵攻による世界情勢激変が影響した2022年3月号を例外とすれば——極端に大きな量の見通し修正はない。しかし、OPEC MOMR 2024年9月号での世界の需要見通しの引き下げは0.1 Mb/dに過ぎなかったが、その日のBrent原油価格の\$2.65/bblもの急落の一因になっているとされている。予想を超えるあるいは裏切るような見通しの修正は、市場で材料になるのである。

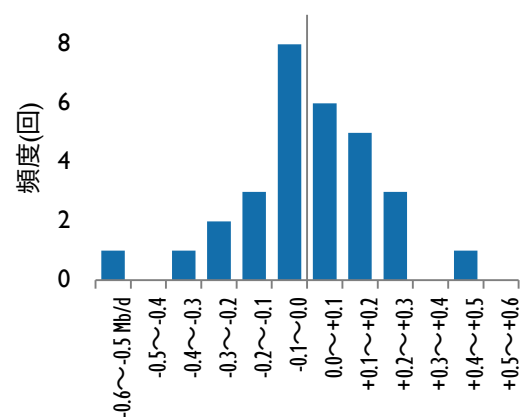
図1 | 世界の石油需要見通し修正量



注: 1月～6月は当年、7月～12月は翌年の見通し修正量  
出所: IEA “Oil Market Report”各号より算定

そうならば、予見を持って見通しに臨めれば気丈夫である。そこで、ここではIEA OMRを取り上げ、足元の傾向を評価する。見通しの前月号からの修正<sup>1</sup>は、ウクライナ侵攻の第一波影響を咀嚼した2022年4月号以降では、平均や分布に大きな偏りは見受けられない。なお、0.2 Mb/dという標準偏差の評価は、人により異なる。

図2 | 世界の石油需要見通し修正量の分布



注: 2022年4月～2024年9月。他、図1と同じ。  
出所: IEA “Oil Market Report”各号より算定

<sup>1</sup> 1月～6月号では当年の、7月～12月号では翌年の見通し

つまり、世界全体で見ると先読みの手がかりとなりそうな特徴は乏しい。しかし、少し分け入ると浮かび上がってくるものがある。

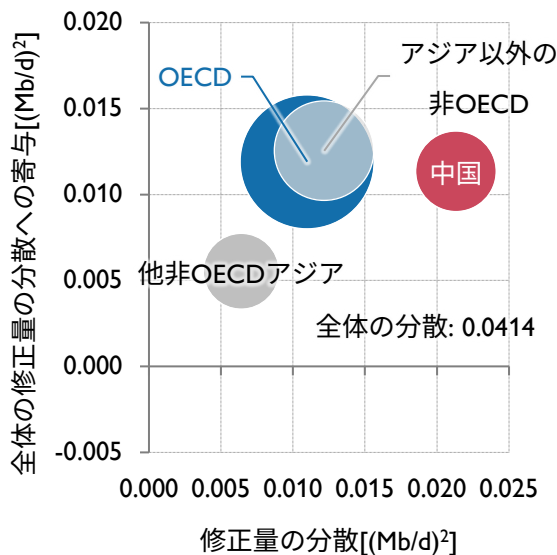
1つは国・地域別の傾向である。経済協力開発機構(OECD)加盟国は、需要規模の大きさの割には見通し修正量の分散が小さく、世界の見通し修正量への寄与(分散と関連する共分散の和)<sup>2</sup>も小さめである。対して、非OECD、とりわけ中国の分散は需要に比して大きい。経済・社会のダイナミズムや統計の精度などが影響している可能性がある。もっとも、中国の寄与は、分散からはかなり縮んでいる。中国の修正は他のいずれの地域とも負の相関関係——中国が上方修正された場合、他の地域は下方修正の傾向——にあるためである。あたかも世界全体で緩やかな総量制約がかかっているかのよう。

2つ目は、製品別の傾向である。電気自動車(EV)の新車販売は、中国を例外として想定されてい

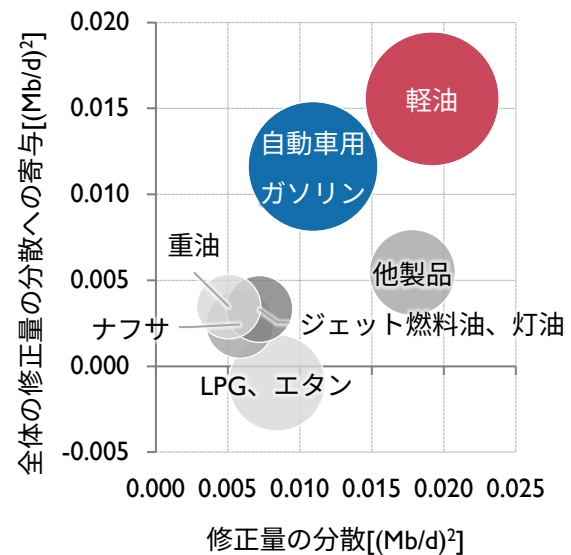
たより失速気味である。これが自動車メーカーの戦略見直し、ひいてはガソリン需要の上振れ観測につながっている。しかしながら、自動車用ガソリンの見通し修正量は、その需要規模からすれば不相応に大きな修正を全体にもたらしけてはいない。IEAのEV見通しが優れているためか？ 新車販売のエネルギー消費への影響は緩慢にしか顕在化しないためか？ 一方、軽油は需要規模はガソリンと大差ないが、修正は大きい。これは、消費量は運輸部門より少ないが、産業部門や民生・農業部門に起因すると推量される。製造業の生産動向——中国の影響が強い——や気温による軽油消費量の振れは、短期的には大きいためである。なお、軽油車は概して重量車主体のため、乗用車が多いEVの影響はガソリンより希薄である。

中国、工業生産、気温、こういった情報を予め持って石油需要見通しに臨めば、少し違った景色が見えてくるかもしれない。

図3 | 世界の石油需要見通し修正量の分散と寄与、需要規模  
国・地域別



製品別



注: 寄与は分散と関連する共分散の和。円の大きさは需要規模。他、図2と同じ。

出所: IEA “Oil Market Report”各号より算定

お問い合わせ: [report@tky.ieej.or.jp](mailto:report@tky.ieej.or.jp)

<sup>2</sup>  $V\{\sum_i X_i\} = \sum_i V\{X_i\} + \sum_i \sum_{j \neq i} 2 \text{Cov}\{X_i, X_j\}$  より、 $X_i$  の寄与を  $V\{X_i\} + \sum_{j \neq i} \text{Cov}\{X_i, X_j\}$  とした。